目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第４９号　2010年 12月　発行人：大野 利幸　編集長：服部 尚彦　事務局長：小杉　哲

事務局：〒152-0023　目黒区八雲4-9-14　Tel 090-7825-6270

2011年　新年会開催のご案内

2011年新年会を1月16日（日）目黒雅叙園において後記の通り開催します。

恒例の第一部講演会では、早稲田大学ラグビー蹴球部前監督並びにサントリーラグビー部前監督・清宮克幸氏をお招きして「栄光の早稲田ラクビー・・・勝ちつづけるためには」と題して新春に相応しいご高説を拝聴することと致しました。ご家族を含めて多数の皆様のご参加をお待ちしております。

特に、年会費をご負担されながら目黒稲門会の様々な活動に参加されていない会員の皆様、この新年会は思い切って参加される良い機会と思われます。素晴らしい講演を聴き、母校の雰囲気を感じ、また懇親会ではすぐに仲間が出来ます。趣味の部会活動にも参加する良い契機にもなります。奮ってご参加下さいます様お待ちしております。

記

1）日時　：2011年1月16日（日）
　受付開始　15時30分

2）講演会　：16時～17時
　講師：清宮克幸氏

　演題　：「栄光の早稲田ラクビー・・・
　勝ちつづけるためには」

3）懇親会　：17時～19時

4）会場　：目黒雅叙園　3Fシリウスの間
　目黒区下目黒1-8-1
　電話　03-3491-4111

5）交通　：JR山手線、東急目黒線、
　地下鉄南北線、都営三田線、
　目黒駅下車、行人坂下る
　徒歩5分
　東急、都営バス権之助坂・
　日の出学園前下車　徒歩5分

6）会費　：会員8,000円、家族5,000円
　当日会場にてお支払下さい。
　当日キャンセルの方は、予約の
　都合で会費のご負担をお願い
　します。

7）送迎　：目黒稲門会専用の送迎バスの
　運行はありません。

8）出欠　：会報に同封のハガキにて、
　12月20日までにご返送下さい。

講師のプロフィール

清宮克幸（きよみや　かつゆき）氏

1967年大阪府生まれ。大阪府立茨田高校でラグビーを始め、3年次に花園の全国大会に出場。高校日本代表にも選出される。

1986年早稲田大学入学。　1年からレギュラーになり、2年次に日本選手権優勝。　大学卒業後、1990年サントリー（株）に入社と共に、サントリーラグビー部に入部、1992年～94年には主将を務めるなど中心選手として活躍。

2001年に引退後、早稲田大学ラグビー蹴球部監督に就任。就任後5年連続で関東大学対抗戦全勝優勝、大学選手権も3度制覇し、早稲田ラグビー復活の原動力となる。2006年、5年振りにサントリーラグビー部へ監督として復帰。監督2年目の2007年度に、サントリーを初のトップリーグチャンピオンへと導く。2009年シーズン終了と共に監督を辞任した。現在NPO法人ワセダクラブの専務理事として活躍中。

（島田　記）

各部会からの案内・報告

美術・歴史鑑賞部会

ようやくしのぎやすくなった秋空の中、10月13日午前10時に横浜「みなとみらい」にある横浜美術館正面入り口に集合（参加者13名）。エドガー・ドガ（1834-1917）の『ドガ展』を楽しみました。数々の踊り子の絵だけでなく、女性の入浴をテーマにした「浴槽の裸婦」、「スポンジで背中を洗う女性」、「浴盤（湯浴みする女）」、「入浴後、髪を乾かす女性」、「浴後（身体を拭く裸婦）」、「草上の二人の浴女」等でいろいろなポーズをする女性に驚きました。モデルの不自然にねじれた姿勢にドガの美意識が貫かれているという解説に何となく納得しながら、約120点の絵画、彫刻を堪能しました。

鑑賞後は、ドガ展の入場券提示で割引キャンペーン中のレストランから、ランドマークにある横浜ロイヤルパークホテルの68階・高級広東料理店「皇苑」を選び、ランチセットで満喫！　美術と食欲（？）の秋を楽しんだ一日でした。

美術・歷史鑑賞部会長　後藤克彦

囲碁部会

第10回稲穂会囲碁大会が平成22年9月22日（日）早稲田大学戸山キャンパスに囲碁会現役、囲碁会OB、地域稲門会から60名が参加して開催された。

A、B、C、D、E、Fの6クラスに分かれて個人戦、ハンディ持ち点制で試合が行われた。

目黒はB組に大久保健治七段、D組に保井　正三段、E組に鵜野洋治一級が参加した。保井三段と鵜野一級が決勝戦に進出したが準優勝であった。

大久保七段は藤田光彩絵さん（囲碁会　社学2年）に惜敗した。藤田さんは囲碁高校チャンピオンで早稲田が誇る囲碁高校チャンピオントリオの一人で、青葉かおり（プロ四段）、下坂美織（プロ初段）が活躍中である。

囲碁部会長　保井　正

ゴルフ部会

去る10月20日、第27回ゴルフ部会を千葉の立野クラシックゴルフ倶楽部に於いて行いました。
参加者は30名、後半少し雨に降られましたが和気藹々のうちに全員無事ホールアウトしました。
優勝は、グロス92、ハンディ20, ネット72、2位と8ストローク差で奥山さん、2位は佐藤祥枝さん、3位は初出場の猪名川さんでした。

参加者のみなさん、ご協力ありがとうございました。次回は来春4月中旬を予定しています。ご意見ご希望をおよせ頂けたら幸いです。

ゴルフ部会長　　大杉邦雄

グルメ部会

毎年恒例の新そば会を麻布十番の更科堀井（会員の堀井良造様が経営）で9/24(金）および10/12(火）の二回に分けて開催しました。合計29名が参加され、そばづくしのお料理と美味しいお酒を堪能しました。

『食は目黒にあり』を標榜するのがグルメ部会です。部会との表現はとっていますが、計画された催しに参加される方々全てが部会員です。リーズナブルな値段で美味しいものを召し上がりたい会員のご参加を心よりお待ちいたしております。

グルメ部会長　海沼美智子

カラオケ部会

催行日時は毎月第2金曜日15時～19時です。
場所はコートダジュール目黒駅西口店。

☎ 03-5436-2688

会費　男性￥3,000 女性￥2,000

配信～ダム、ディスプレイは3面

ユッタリとした部屋で、待ち時間に軽く一杯

会場の変遷

平成11年10月10日　第1回　中目黒「バッハ」
平成14年11月10日　第19回「サンステップ」
平成16年10月 7日　第34回
コートダジュール学芸大学店
平成22年9月10日　第103回
コートダジュール目黒駅西口店

カラオケ部会長　海口昭治

麻雀部会

1）3区　第27回親善麻雀大会が渋谷スリーハンドレッドに於いて、開催され20名参加しました。
優勝は脇坂氏（世田谷）、準優勝は郡山氏（目黒）、3位は草野氏（世田谷）でした。

2）今後の予定
12月12日(日)　第42回定例麻雀大会

以上の開催を予定しておりますので皆様奮ってご参加下さい。

麻雀部会長　鵜野洋治

俳句部会

俳句の起源は和歌（短歌）にあります。和歌を複数の人で詠む「連歌」という形式が和歌から分離独立した芸術として生まれました。連歌の起源は万葉集巻八に家持と尼とで五七五･七七を詠んだ一首に見られます。

佐保川の水を塞き上げて植し田を（大伴家持）
刈る早飯はひとりなるべし（尼作る）

この連歌が平安中期になると貴族の間で盛んになり、それに伴い色々なルール（式目）が定められ、その式目に従い五七五と七七の組み合わせを五十回連ねる百韻が主流となりました。式目の中でも特に重要視されたのが第一句目でそれを発句といい、季の言葉並びに切れ字を必ず入れるという規則が定められたのです。　（次号に続く）

第22回（2010年10月）「萩句会作品」

安藤虎雄　蟷螂の獲物に挑む身の構え
川井素山　朝日さす風にこぼるる萩の露
紀本直幸　鳥のため一つ残せし熟柿かな
保井寶生　行く秋や書棚の画集手にとりて
米田文彦　主なき裏山なれど竹の春
佐々木彩女　古紙はらり妣の遺せし秋一首
青木英男　山里の香の強き走り蕎麦
佐藤喜仙　辻地蔵秋草を罐に供花して

俳句部会長　佐藤喜孝

ウォーキング部会

9月部会(第39回)　親水公園から彼岸花の観賞。晴天に恵まれ汗ばむ1日になりましたが惜しむらくは今年の猛暑のため彼岸の前後に咲く花が遅れて僅かしか咲いていなくてがっかりしました。

10月部会(第40回)　北鎌倉から鎌倉へウォーキング部会の原点である北鎌倉から鎌倉まで古刹を巡りながら金木犀、銀木犀の香りを楽しみ、萩の花をめで、鶴岡八幡様の大銀杏の再生に驚く1日でした。

11月部会は、2日(火)　西鎌倉から源氏山です。

今後の予定では12月は鎌倉をちょっと離れて国分寺崖線を散策します。

日時：12月8日(水)　午後1時集合
場所：中央線武蔵小金井駅南口

なお1月、2月はお休みします。
参加予定者は牧野まで連絡ください。

Mail　tamakino@aol.com

ウォーキング部会長　牧野武夫

会員の広場

闘病記（その4）
「命＝ポリープからガン化」

浅海敏之（昭和34年政経）

「病名は大腸ガンです」「先生、人口肛門になりますか？」「いや、なりません。S字結腸の所ですから、悪い所を取って、つなぐ手術になると思います。」人口肛門にならなくて良かったと、思う気持ちと、いよいよ死ぬのかと、複雑な気持ちになった。「病室が空いていれば、明日でも入院出来ますか？」「はい、一日も早く手術して頂きたいです。」入院の書類に大至急の印鑑を押された。

実は、平成17年（2005年）2月、東邦病院の人間ドックの検査で、大腸に1ミリ大のポリープ3つあることが、分かったが、大きくなったら取りましょうと言われた。18年、19年の際には、大腸の検査すらしなった。僕もまだ、いいのかと思い、聞きもしなった。20年2月は心臓のバイパスのことで、大腸は頭の隅に追いやられてしまった。勿論、PCにデーターは記録されているが、これまでのいきさつを、掛村先生に今までの経緯を報告させてもらった。先生はポリープを切除しなかった事に、責任？を感じているのか。大至急の印で、そんなことを感じた。夜、子供たちが集合。一年に二度も入院、手術。しかも、今回は大腸ガン。バイパス手術した心臓の検査入院と言うことを申し合わせた。2008年10月10日、心臓の手術から半年後にまた手術するとは思いもしなかった。血液サラサラの薬を止めて、普通の血液に戻すのに、一週間かかるので、その間は腹部、胸部、頭部のCT、エコー、レントゲン、心電図などなど。ガンの手術にたえる心臓かをカテーテルの検査。一か所詰まっていることが分かった。（又、半年後、血管拡張のカテーテルをすることに）10月30日8時30分、子供たちの頑張って！に送られ、歩いて手術台に。（脊髄に痛みどめの薬を送る細い管を挿入するために、）その後、麻酔がかけられ、意識はなくなった。

浅海さん、浅海さん、終わりましたと。子供たちの顔、4時間半かかり、綺麗にとりました、リンパ節も。見せてもらったけど、焼き肉屋のミノみたいだったよ。組織は検査にまわしました。ICUには行かず、病棟のナースの隣の部屋に移された。微熱はでたものの、順調に回復して、11月2日には体に入っていた管が取れ、食事も口からとれるようになり、消化器としては6日以降何時でも退院してもいいですと言われたが、血液がサラサラにならいと、だめですといわれ、なかなか、許可がでなかった。7日にうれしいニュースが飛び込んできた！！リンパ節にガン細胞はありませんでした。抗がん剤の治療はやりません。先生、ありがとうございましたと涙で言葉にならなかった。今後三カ月ごとに検査します。大腸ガンは今までのデーターから、肝臓ガン、肺ガンに。五年間異常ががなければ、卒業です。がんばりましょう。と励まされた。

丁度1ケ月ぶりの9日に我が家に戻ってきた。便秘が一番良くないからと、3ケ月分の下剤が出た。大腸にやさしい食事はどういうのが良いのか本などで研究した。今までの食事とはがらっと変わった。1、ヨーグルト（ハチミツをいれて）2、野菜（ニンジン、カボチャ、ニンニク、キャベツ、ブロコッリー）ただし、ワーファリンを飲んでいるため、大豆はいいけど、納豆はだめ、緑黄色野菜は100グラムまで。3、玄米（玄米酵素）4、大豆のプロテイン、5、果物（オレゴンのプルーン、バナナ、りんご、ぶどう、キューイ）6、海藻類(秋田からおぼろこぶ)などを、毎日食べるようになった。

今までは、ご飯に味噌汁、漬物。和食、肉類中心だったのに。飽きもしないでヨーグルトが食べれるとは不思議でならない。それに加え、ガンは低体温が好きだそうで、体温を上げるために、いろいろと努力、工夫を試みている。そんな時、本屋さんで「今あるガンが消えて行く食事」、「ガン再発を防ぐ完全食」など済陽高穂（わたようたかほ）医師の書いた本にめぐりあった。素人なりに自分の行っていた食事が間違っていなかったことが分かった。本の中では、野菜ジュースを1から2リットル（ジューサーで作る）、レモンなどを飲む。野菜にきのこ類を。水道水を自然水に。取ってはいけないものに、1、四足の肉類、2、食用油（良い油と悪い油）、3、塩分、4、酒類、たばこ）。とある。牛豚の肉を鶏肉に変更した。それも10日に一度くらいに。水も酒屋さんから20リットル入りの自然水を、塩分は控えめにした。好きなお酒は止められなかった。（ただ、現在は薬の副作用でドクターストップ）何時、どこに、新しいガンが顔を出すか、やはり不安がある。3ケ月ごとの検査結果を先生から聞くときは、緊張する。ガンよ、出てくるなよ、そんな思いで飽きもせず、ヨーグルトなど、食べ続けている。外食は塩分も多いし、油も分からないので、夜のお付き合いが出来なくなってきた。

そんな時、7月19日の午前3時ごろ、大量の下血があった。こんな時間だしそのうち止まるだろうと思っていたが。10回位続いたか。8時ごろにトイレで崩れ倒れた。救急車を呼んでくれ！気がついたら、沢山の救急隊員、401号室と言ったから、消防自動車まで。何故一回目の時に呼ばなかったかと怒られた。医師からも血液の三分の一が出血したら、心臓が止まり死を招く、特に浅海さんは心臓の問題があるんだからと、大目玉を。まず、輸血を。2, 3ケ月後にエイズの検査を受けることを承知して。3日後に大腸の内視鏡で下血の場所を。憩室からの下血と分かり、3ケ所クリッピング。憩室からのものは、原因が分からず、これで終わる人もいれば、また、下血する人もいる。もし再発したら、すぐに入院するように。年をとり、憩室があって、サラサラの薬を飲んでいる人は、注意して下さい。と言われた。あっちを治せば、こっちがわるくなり、こっちを治せば、あっちが悪くなる。10日間の入院で完治して、無事に退院した。

（完）

「目黒に生まれ目黒に育った」
―記憶のスケッチブック―

佐々木芳子（昭和29年　教）

私は目黒に産まれ、育ち、そして今でも目黒に住んでいる。子供の頃には、あちらこちらにまだ原ッパなる空き地があって、子供達のけっこうな遊び場になっていた。学校から帰っておやつを食べ、宿題もそこそこに飛び出せば、そこにはすでに仲間の誰かれがいて、草むらでかくれんぼをしたり、鬼ごっこをしたりして遊んだものである。悪童共は立木のてっぺんに陣取って、後からくるものを蹴り落とそうとゆすりたてたり、蛇が出たといっては追い回し、揚句、縄切れのようになった死骸をいきなり女の子の群れの中に投げ込んだりするやらで、泣く子、わめく子、そこはまさに子供達の世界、小宇宙があった。そんな時間知らずの子供らの耳に遠くから間えてくる喇叭の音。夕方のお豆腐やさんの吹く喇叭には、なぜか子供心にも郷愁が感じられて、“もう帰らなくちゃあー“と急に家が恋しくなる　折しも、どこかの家から「御飯ですヨー」子供を呼ぶ母親の声が響き、急に空腹に襲われた子供らは「お土産三つたこ三つ…」とひとしきりまた叩き合ってはしゃいだあと、「さいなら」「明日もネ」と一目散にクモの子を散らすように家へ向って駆け出すのだった。目黒はお寺の多い土地だ。私が住んでいる周辺だけでも、『祐天寺』『鬼子母神』『目黒不動』その間に大鳥神社、天祖神社、八幡神社といった、いわゆる産土神（うぶすながみ）も点在している。江戸時代にはこうした神社仏閣に大奥からの御参詣やら、あるいは将軍家、旗本のお鷹狩りといった、特権階級の今でいうちょっとしたレジャーやヴァカンスには持ってこいの距離にあったと思われる。そこで落語の『目黒のさんま』やら、太田道灌の『山吹き』のエピソードもうまれようというもの。だから昔は旧市内には入っていなかったそうで、要するに竹藪だらけの郊外だったわけである。夜になると人通りも少なく、小さい頃、冬の夜更けなど、祐天寺さんの裏の森のふくろうが『ホウ、ホウ』と寂し気に鳴く声が聞えると、なんとも恐ろしく、慌てて寝床にもぐり込んだものである。この森ではしばしば首吊りがあった。ほかにもガスタンクの森というのが今の環六脇にあって、ここでもよく自殺する人がいた。そんな情報は子供の世界では不思議に早い。ガキ大将を先頭に、こわいもの見たさでワラワラと馳け出して見に行く。たった一度だけ私も彼等に連れられて、大人の足の間からのぞき込んだことがある。“むしろ”の先から紺の菜ッパ服の脚が二本はみ出していた。その夜、母からその話しを聞いたらしく、父が珍しく厳粛な顔をして、「そういうものはなるべく見ない方がいい」と云った。その頃の常で、父親は慣れ親しむといった存在ではなく、一番えらい人、こわい人、という家族のありようだったが、それとは又一味違った感じで、そのことばには妙な説得力があった。

＊＊＊

駒沢通り、今千代田生命のある所は、当時は向い側の中目黒小学校と同じように高い石垣になっていて、『アメリカン・スクール』があった。この異人さんの学校はいたく子供達の関心をそそった。坂に面した中程に鉄の扉があって、そこから真直ぐ昇る暗い塹道のような階段は妙になぞめいていたが、それを登り切るほどの勇気を持つ子はいなかった。高学年になって音楽教室を使うようになったら、なんと目の前にアメリカン・スクールの広々とした美しい芝生の庭が、蔦のからまる瀟洒な白い校舎が、目の前に拡がっているではないか。開戦寸前のその時は、既に人影もなく、しんかんと静まりかえっていた。そのたたずまいは今でも私の脳裡にしっかり焼きついている。とりわけ、風の日、雨の日の景色は忘れることが出きない。校舎を覆った蔦がさざ彼の様に揺れ動き、目に輝き、雨にけぶり、いつまでも見飽きることがなかった。

＊＊＊

この切り通しの坂は結構きつい坂で、真夏には激しい太陽に照りつけられて荷馬車、がよく立ち往生していた。　馬子は必死で馬をけしかける。重い荷駄に引っ張られて首を上げた馬は、石畳に蹄を滑らせながらも一所懸命脚を踏ん張る。馬子も馬も汗まみれになって登り切ったところが天祖神社前。参道の木陰に馬を停めて馬子は馬に水をやり、自分も麦ワラ帽子を脱いで、腰の手拭いで汗をぬぐい、しばしの涼をとる。だが中には、どうにかここまで来たものの精も根も尽き果てた馬が倒れて死ぬ、というケースも珍しくなかった。私が最後にそれを見たのは昭和十六年、開戦の年の夏だった。大きな馬体で、可成り老令だったのかも知れない。しばらくもがき苦しんでいたが獣医が駆けつけた時にはピクリとも動かなかった。　なぜか、あたり一帯水びたしで、それは身体を冷やす為にかけられた水だけでなく、汗と多量の放尿をしたものの様であった。　その時近所の小母さんが私の耳元で囁いた「ホラ、見てごらんなさい。死ぬとネ、人間も動物もあんな風に穴という穴が開いてタレ流しになるのョ。」そろそろ少女期にかかり始めていた私はその露骨な言葉にひどくうろたえた。顔を上げることも出来ない。しかも、この小母さんは評判のハイカラ美人で、旦那さんはこの奥さんを『あなた』と呼び、細々とした雑事は自分がやる。奥様はいつも身きれいにして、何かと云っては旦那さんを呼び立てる、といった、当時珍らしい家庭。その女王様のような人の美しい口元からこんな言葉がでるなんて……蝉の声も人声も、一瞬聞こえなくなるほどのショックを受けた。

やがて太平洋戦争が始まった。父が外地に居た関係上、送金や連絡のこともあり、母と姉と三人、東京に残って頑張る筈だった。しかし三月十日の大空襲を目の当りにして急遽、疎開という騒ぎになった。遠い親戚を頼りに弘前に移ったのが三月末、東北はまだ雪の中であった。　八月終戦。九月になって東京に帰れるという。時を移さず東京に戻ってきた。幸いにも目黒の家は焼けずにいた。一説によれば、アメリカン・スクールのお陰だという。ほんの少し離れた所には焼夷

弾も落ちているから、この話は本当かも知れない。

私の家はごく普通の木造二階家。昔いうところの“しもたや”で、今もそのままだから、天然記念物的になってしまった。私達が引越してくる前にはアメリカ人が住んでいたそうである。アメリカン・スクールの先生で、実はスパイだったという人もいるが、真偽の程はわからない。ただ、縁側の雨戸に白墨で、『カンニングハムさん雨戸』とたどたどしい落書きがあり、長いこと残っていた。

＊＊＊

東横線の中目黒と祐天寺の丁度中間、駒沢通り添いのその家を、当時は電車の中から見ることが出来た。学生時代、連れの友人や話しの具合でどちらに降りるも気まぐれだったが、中目黒の駅を出はずれると「ホラ、あそこ、あの柿の木のある二階家が私の家ヨ。」と指さして「どこ、どこ、ああ見える見える」などというやりとりもあった。

＊＊＊

今、線路沿いに見える景色もせせこましく、馬子を悩ませ、馬を立ち往生させた坂は常に自動車で埋まっている。アメリカン・スクールの跡地は石垣が壊わされ、土が削られて、千代田生命ビルが威容を誇っている。息を切らして坂を上がって来た人々を迎えた小さなおでん屋さんの跡形もなく、天祖神社の参道は駐車場になってしまった。　家々は軒を接し、アパートやマンションが立ち並ぶ。遊び場もガキ大将もとっくの昔に消えてしまった。たった半世紀の出来事である。

＊＊＊

でも、わたしの記憶の中では今もなつかしい子供の頃の、青春の日々の、この土地のアレコレが、様々な想い出と重なってスケッチブックをめくる様に鮮明な画像となって現れる。やがて又こうしている一時もその一頁になっていくのだ。　よい追憶は、佳き日々の中からしか生まれない。自分を育ててくれた様々な人々、そして環境。回想は単なる懐古だけでなく前を見る“目”にもつながる。昔と今はたしかに違う。でも今には今の良さがある筈だ。我々の前の世代も、我々も、そうやって時代の変化の中で生きて来た。　だからこそ、今、育ち盛りの子供達や、青春を謳歌している若者達に云いたい。自分を、人を、土地を、すべてを慈しんでほしい。「今」を、「今のすべて」を大切にしてほしいと思うのである。

(編集部注)本稿は東京都社会福祉協議会主催の「語りつぐふるさと東京～東京に生きる～」をテーマした作品応募(平成3年)で、当会会員佐々木芳子氏が同協議会会長賞を受賞した作品です。

新入会員

河村晋彦　氏（昭和52年　教育）
（横浜青葉区在住）
趣味：落語、ボクシング、作詞
自営の（株）河村樹脂工業を経営し、大学まで生まれ、育ち共に目黒でした。ファイティング原田ボクシングジムに通っています。

事務局便り

1）2010稲門祭開催

10月17日（日）薄日も差し10月半ばとはいえ少々汗ばむ陽気の中、母校のキャンパスは早稲田カラーの紙学帽をかぶった校友で満ち溢れました。

本年は早稲田大学校友会設立125周年にあたるため、ホームカミングデー記念式典と校友会設立125周年記念式典の共同開催となりました。設立式典の後に校友会功労者として、早稲田大学校友会より眞仁田　勉初代、加藤榮護2代の両元会長に白井校友会長より表彰状が贈られました。

大隈庭園の築山の中央に目黒稲門会の小旗を目印にして約20名が陣取り、もちつきや、ハワイ民族舞踊研究会によるフラダンス等を模擬店のお酒やつまみで楽しみながら大いに談笑をして、豪華な稲門賞（乗用車・海外旅行・国内航空券・デジタルテレビ）が当たることを祈りつつ、稲門祭奨学金記念品の購入に協力を頂いた46名・165枚の抽選発表を持ちました。午後3時抽選発表、残念ながら稲門賞には届きませんが、職域賞5名、ふるさと賞3名、校友会賞9名が当選。校友会賞はガムやカップチョ等でしたのでその場で配分。

職域賞、ふるさと賞は各企業や各稲門会からの賞品が大きな紙袋一杯に入っていました。当選の会員には賞品を事務局より宅配便にて発送をして、すべての作業が終了致しました。

そして、打上げご苦労さん会を高田馬場駅近くの「モーモーパラダイス高田馬場牧場」にて開催し、母校で楽しんだ半日は19時過ぎに解散、それぞれ家路に着きました。

23区支部受付を引受けて頂いた地田さん、稲門祭実行委員としてそれぞれの持場で汗を流した大竹さん、笠谷さん、吉田さん。会員の期待を背負う抽選発表を真剣に確認作業をして頂いた参加者の皆さん。本当にお疲れ様でした。来年こそ稲門賞をゲットし今までの投資を回収しましょう。

2）早稲田大学校友会125周年記念催事

校友会の記念催事の一環として「早稲田講談・落語会」が12月1日（水）18:00から日本橋公会堂で開催されます。木戸銭は1000円です。本会報の到着と間が少ないですが、ご案内いたします。

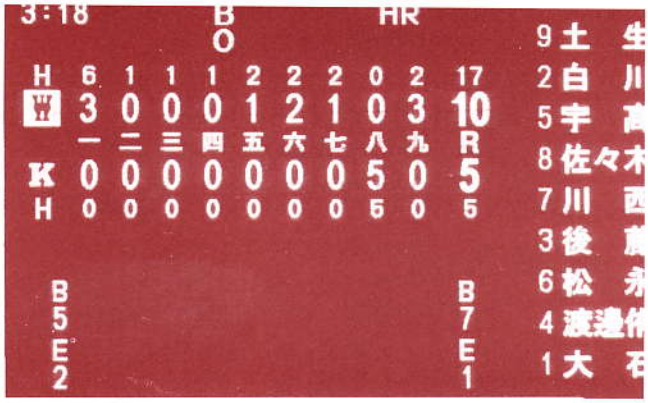
3）2010秋・早慶優勝決定戦

—50年ぶりの早慶決勝戦に臨む—

あと1勝で優勝と王手をかけて臨んだ秋の早慶戦。早稲田は2試合で1点と貧打の上、ドラフト1位指名トリオも振るわず、慶應の好打、好投の前に何と2連敗を喫した。そして50年ぶりの早慶決勝戦、あの早慶6連戦を彷彿させる大舞台が演出された。秋晴れの神宮球場は3万6千人の大観衆の熱気で沸き上がっていた。打線を組替えて向かった早稲田は1・2戦とは異なり好打の連続、初回から慶應のエース竹内を攻め3得点。そして主役のエース斉藤はノーヒット・ノーランまであと5人と迫る好投を見せ、最後は守護神大石が慶應の反撃を断って有終のリレーを演じた。慶應は八回に2点差まで迫り好投の斉藤を降板させたが、九回は投手を使いきり、内野手を投入する総力戦の末力尽きた。結果10対5で4季ぶり42度目のVを獲得した。

斉藤投手は、優勝インタビューで、『自分が持っている「何か」とは「仲間」だと確信をした』と、コメントしました。素晴らしい名言ではないでしょうか。わが目黒稲門会も先輩・後輩のよき「仲間」が大勢います。この「仲間」を大切にして、さらに充実した稲門会活動にしたいと願います。

（吉田　記）



稲門会ニュース

1）2011年の早慶レガッタ OB戦に出場

井村氏は昨年に引き続き隅田川で開催される早慶レガッタでOB戦に出場されることが決まった。目黒稲門会は花の隅田川に応援に駆けつける計画である。

2）旅行部会の訪問先西尾稲門会との再会

嘗て旅行部会で愛知県吉良の尾崎士郎記念館を訪問した。　当時の記念館館長・中村英雄氏（西尾稲門会）が稲門祭の大隈庭園に目黒稲門会の集合場所を態々訪ねて下さり、嬉しい再会をした。

3）大学関連の発行書籍と目黒稲門会

最近大学及び校友会等から数冊の書籍が発行された。

(1)「早稲田大学校友会125周年小史」
早稲田大学校友会編

(2)「早稲田大学校友会　支部めぐり　人めぐり」
早稲田学報編集室編

(3)「白球の絆　稲門倶楽部の100年」
稲門倶楽部編

(1) には平成12年に第一回奥島総長杯争奪全国稲門会対抗戦ゴルフコンペが開催され、我が目黒稲門会の浅海敏之氏（昭和34年政経）が優勝された記事が掲載されている。

(2) は多くの校友が暮らし、集う東京23区支部として、我が目黒稲門会の設立から現在までの活動と母校への貢献が要領よく纏めて紹介されている。

(3) は既刊の早稲田大学野球部百年史（上下巻）の記録と資料中心の内容と異なり、これを肉付けし、ＯＢの足跡などの力点を置き一般野球ファンにも楽しめる内容となっている。

（編集部）

ＨＰ便り

目黒稲門会ではホームページ(HP)とともにメーリングリスト(ML)で情報の共有をはかっています。MLとは、決められたアドレスにメールを送ると、ML登録者全員にそのメールが送られる仕組みです。会員名簿にメールアドレスを記載された方はMLに登録済のはずですが、MLのメールが届いていない方・新規登録をご希望の方は事務局までご一報願います。

（小杉　記）

部会案内一覧

詳細は本誌の各部会報告をご覧いただき、興味をお持ちの部会にお気軽にご連絡下さい。平成22年12月現在

部会名	部会長 担当幹事	連絡先 電話/Fax	参加人数	当日（年） 会費	活動概要
囲　碁	保井　正		10数名	200円	毎月 1回（下目黒住区センター）
カラオケ	海口昭治		15~20名	3,000円 女性2,000円	毎月 第2金曜 午後3~7時 （コートダジュール目黒駅西口店）
グルメ	海沼美智子		20~30名	5,000円~	年3回程度　リーズナブルな金額と雰囲気・味の良い店を厳選
ゴルフ	大杉邦雄		20~30名	20,000円程度	年2回春秋目黒通りバスで送迎
ウォーキング	牧野武夫		15~20名	なし(各自負担)	シーズン中は毎月1回程度
麻　雀	鵜野洋治		10数名	3,000円	年6回　武蔵小山“サン”および渋谷“スリーハンドレッド”
美術・歴史鑑賞	後藤克彦		30~40名	その都度	年3～4回
旅　行	井村正陽		20~30名	その都度	年2回　春秋
若　木　会	石川智子		10名程度	その都度	年数回 土曜夜　若手の企画に広い層の参加を期待
よん月会	土川俊雄 (井村代理)		15~30名	4,000円	毎月 第4月曜　午後6～8時 （「あっぱれ」都立大学店）
俳　句	佐藤喜孝		12名	3,000円/年	毎月　第3金曜　午後2～5時 下目黒住区センター
広報編集委員会	服部尚彦	eメール　meguro-tomonkai@nifty.ne.jp URL　http://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda/			

2010年度校友会・23区支部関連委員担当表

名称（委員会名）	活動内容	任期	会合回数	目黒稲門会代表委員
商議委員会 （商議員）	大学財務報告、決算・予算の承認、学事報告	4年 （2008・6～2012・5）	1回／年 （臨時会議あり）	大野会長・吉田幹事長・海沼副会長・浅海相談役　（会長は必ず就任）
代議委員会 （代議員）	決算・予算の承認、校友会事業の承認、組織強化費・稲門祭について報告	4年 （2008・6～2012・5）	2回／年	保井副会長・大竹副会長・小杉事務局長・中上幹事 （幹事長 or 事務局長のどちらか1名が必ず就任）
幹事長・事務局長会議	代議員会に先立って同日に開催	代議員任期に準じる	2回／年	吉田幹事長・小杉事務局長
東京都23区支部幹事会	各区稲門会活動報告稲門祭、支部大会の企画、運営	1年（4月～3月）	8月を除く毎月	大竹副会長 ※　役員会で委員を推薦・委託
東京都23区支部事業委員会（他；組織・広報委員会あり）	23区支部関連事業の企画・運営	1年（4月～3月）	年5～6回	大竹副会長 ※　23区支部幹事会の幹事互選による構成
稲門祭実行委員会 （実行委員）	稲門祭の実施に関わる会議	1年（4月～10月）	年3回＆稲門祭当日	吉田幹事長・笠谷興一朗会員 ※　役員会で担当委員を委託して校友会に登録

目黒稲門会の校友会関連組織と委員

目黒稲門会では校友会組織と連携を取り、母校や関連校友会との意見交換、また母校催事への協力を行っています。

ここでは、会として参加を要請し、代表委員として諸会合に出席して頂いている方々とそれら組織とその目的、近年の議題、参加会員を一覧表として掲げ、会員皆様の一層のご理解とご支援を頂きたいと願っております。　（事務局）

編 集 後 記

目黒稲門会会報も来春には発刊以来50号を迎える。この新しいピリオドを前に、会報に関わられた方々に会報を多面的に検討して頂いた。闊達で忌憚の無い議論の結果は基本的に現行を維持し、発展させることを結論としたが、この検討の中で今までのご苦労や様々な現状になるまでの経緯などの理解を共有することが出来たことが最大の成果であったと感じられた。

今後は会員の皆様の更なるご支援、ご協力を頂きながら会員のためのより良き会報の編集に心して務めたいと広報編集委員会は考えている。

（服部　記）